

令和6年度 第1回高梁市地域公共交通会議議事録（要旨）

日時：令和6年 5月20日（月）14：00～

場所：高梁市図書館 4階多目的室

資料：・会議次第、委員名簿、席次表、路線図、福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」について
・生活福祉バス・乗合タクシー利用者数の推移
・高梁市タクシー利用助成制度（実証事業）利用状況について
・高梁市地域公共交通計画の策定について

1. 開 会

会議成立報告

2. 会長あいさつ

3. 報 告

- （1）令和5年度 生活福祉バス・乗合タクシー利用者数の推移について
- （2）令和5年度 高梁市タクシー利用助成制度（実証事業）利用状況について
- （3）高梁市地域公共交通計画の策定について

4. 議 事

- （1）令和5年度 生活福祉バス・乗合タクシー利用者数の推移について

丹正会長：ご質問、ご意見等が無いようでしたら、続きまして報告（2）令和5年度高梁市タクシー利用助成制度（実証事業）利用状況について、に移りたいと思います。最後の方でも一括してご質問をお受けできたらと思います。

<意見なし>

- （2）令和5年度 高梁市タクシー利用助成制度（実証事業）利用状況について

丹正会長：事務局から高梁市タクシー利用助成制度の利用状況について説明がありました。このことにつきましてご質問等がありましたらお願いいたします。

<意見なし>

丹正会長：よろしいでしょうか。続きまして、高梁市地域公共交通計画の策定について、事務局からご説明させていただきます。

- （3）高梁市地域公共交通計画の策定について

丹正会長：事務局から今年度のスケジュールにつきまして説明させていただきました。高梁市地域公共交通計画の策定にあたり、ご支援をいただく株式会社バイタルリードから補足的な説明等、何かありましたらお願いします。

VL 神田：スケジュール表をご覧になっていらっしゃるかと思います。今回の会議が終わって、次の公共交通会議に皆さまにお諮りする素案ですが、この表では11月となっております。大体7月、8月までに高梁市の現状、その他の問題等の把握、課題整理を行います。ご承知のように、昨今交通事業者のバスやタクシーの乗務員の人材が非常に不足していらっしゃる状況があります。既に高梁市からいただいている将来的なイメージも含めまして、

まずは交通事業者の皆さまとのヒアリング及び協議を行いたいと思います。ある程度計画を作った後に、交通事業者の皆さまからそんなことはできないと言われてしまうと困りますので、それを第一に進めたいと思っています。本来は住民の方のニーズを踏まえてからという形もあるのですが、ニーズを拾い上げてでもそれを実施する側の運転手がいらっやらないと何もできなくなります。交通事業者側の状況と、加えてできる範囲を明らかにして、その中でいろいろな交通に対し実際にどういった事業に取り組んでいけるかということ踏まえたアンケートを作りたいと思います。事業として取り上げられる可能性のある内容に触れるような一歩踏み込んだ設問をアンケートに入れさせていただいて、住民の皆さまへアンケート調査を実施したいと思っています。そして高梁市や交通事業者の皆さまと協議しながら、実際に実施する事業として計画に盛り込んでいきたいと思っています。

丹正会長：ありがとうございました。それでは、今年度の計画策定スケジュールにつきまして何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

植木委員：資料 4 の今後の施策の説明の中で、5 ページの大きい 5 番の下にある（1）前計画の目標達成状況の評価とあります。評価するのは非常に大事なことです、以前の計画をどうだったと言うつもりはありません。平成 21 年か 22 年だったかと思いますが、デマンド型のドアツードアの事業を実証実験で始めるということが住民説明のときにありました。そのときにアンケート調査で利用したい人が 200 人弱、大変たくさんの利用希望がありました。実際に運行開始してみると、ほとんど利用者なし。この計画だけでなく、連携計画の序章にもそのことが書かれてありますけれども、増大する公共交通関連支出の抑制は喫緊の課題です。例えば運行回数や経路はどこを使うのか、回数を多くしてほしいというのは、利用者側からは当然のことなのですが、先ほど触れた実証運行は利用しにくいということから途中で終了となった訳です。これは公共サービスの、いわゆる受益と負担の関係でしっかりとサービスをしてほしい、それならその代わりに負担もありますということを、事業を進める上で住民がしっかり理解できるような、そういう場を設けてほしいと思います。お金がなかったらこの程度しかできませんよということもしっかり説明してもらいながら、事業を進めることをぜひお願いしたいと思います。それから、先程の説明にあった事業の PDCA サイクルについても、何がどうだったかをしっかりと検証した上で、事業化や計画策定そのものに取り組んでいただきたいと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。過去に有漢で実証した乗合タクシーですけれども、乗り換えが大変だったというようなご意見が多くありました。ただ、その中で唯一良かった点は、備北バスが地域に入ってくださったことです。安全性は担保されていたと思っています。ただ、良い部分だけではなく、乗り換えが発生する点が大変だったという悪い部分の両方が出てきたと思います。ご意見のとおり、乗り換えなしで目的地まで行くというのが究極の理想だと思います。ただ、それは並行する備北バスの路線を利用しつつということになると、変更する場合は、金額が高くなる、または競合する等、いろんな条件が出てきます。できることとできないことは当然出てくると住民の皆さまには理解をしていただきたいと思います。ましてや目的地まで行くとなると、どうしても片道 700 円～1,000 円ぐらいの負担になるだろうというのは、植木委員がおっしゃった通りだと思います。それは費用対効果、都市部でよくありがちなバスに 200 円で乗れたらいいよというような話ですけど、現状それは高梁市ではとても難しいと思います。そういった説明を本来は細かく

やっていくのが行政の役目だということもあるかと思います。住民の皆さまはそれでいいと思うのか、3割なのか5割なのか、100%なのか、検討がつかないところですが、どこかに着地点を見つけることについてはご理解いただきたいと思うところです。まずは計画を策定するにあたり、公共交通の状況というのを今年度中に広報紙に記事として出したいと考えています。そこでどういう状況にあるのかというのをまずは住民の皆さまに周知する機会として活用したいと思います。

政森委員：植木委員からの発言にもあった通り、私もアンケートの件については600名に行ったとありましたが、本当に利用が必要な人に対してアンケートをしたのかどうか、無関係の人も対象だったのか除いたのかどうだったのかということが疑問です。私はもう何度も何年もアンケートより地元に入って意見を聞いてみてくださいよと言ってきました。前回私が地元の人から聞いたものでは、時間のことや運賃のこと等いろいろな意見が出てきました。何年かで行政の中も変わりましたが、やると言うばかりでまだまだ進んでいないというのが現状です。公共交通会議に出ると議事録を作成されて、誰がどういった発言をされたか分かるものです。高梁市は出ていません。アンケートのやり方もいろいろあるでしょうし、もう少し検討しながら行ってほしいと思います。先程の話では地元の声を聞いたら200名利用したいとありました。私自身も専属で運転に携わりました。その際私はアンケートに答えていないという方が沢山いらっしゃいました。バイタルリードも何年も携わっておられます。アンケートや資料を作成するにあたって、委託業者だけに任せるのではなく、高梁市の職員も一緒に作るような形にしてもらいたいと思います。地域に合った形があるということ踏まえた次回の公共交通会議にさせていただきたいと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。昨年度、一昨年度、その3年前からも政森委員からご指摘をいただいているところです。確かに足りない部分はありますが、昨年、本年度も地域の民生委員会やそういったような包括センター等、いろいろと個別には公共交通についての説明をしております。対住民というところで十分に行き届いていない部分がありますので、そこに関してはご指摘のとおり対応させていただければと思いますので、その際にまたお声がけさせていただければと思います。

政森委員：何度言ってもそれで終わりになっていますので、お願いします。

丹正会長：前回2月の会議だったと思いますが、同様のご意見があつて事務局でも新年度になったら地域に入っていくいろいろお聞きしたり、説明会なりで意見聴取したりするというようなことを言われたと私も記憶しております。これからアンケート調査等を行っていくにあたり、バイタルリードとしては事業者の方へのヒアリングを先行して行うということですので、市の方はできる限り地域に出向いて地元の声を聞くということが大切だろうと思います。ぜひ前向きに具体的なスケジュール感を持って取り組んでいただければと思います。

柴田委員：利用者のニーズを集めたヒアリングというのが非常に重要だと思いますが、今回ヒアリングは交通事業者の方々と高校事務局ということで、医療関係のところへのヒアリングはしないのでしょうか。

事務局：ご質問ありがとうございます。こちらの資料には書いてはなかった部分がありますが、最も重要なのは、住民の通院や買い物です。これはどうしても切っても切れない関係だと思います。例えば通院に関するものというのは、現状の生活福祉バス、乗合タクシーでも必ず通過するような地点は継続させていただきます。細かい部分については確認の必要もあり

ますので、そこは後に盛り込ませていただきます。ありがとうございます。

(4) その他

丹正会長：今後の予定について事務局から説明がありました。ご理解いただけたでしょうか。何かご質問がありましたらお願いします。

小野委員：先程国に申請するという話は直接言われたわけではないのですが、急に今日言われて、今日いきなり考えないといけないというのはなかなか動けないものです。先程バイタルリードがおっしゃっていた我々交通事業者に対するヒアリングというのは、恐らく交通事業者の現状持っているポテンシャルに対して、いろいろな案が実現可能かどうかとか、例えば利用したい人がこれほどいる、だからそこまで行えるかどうかということを探るヒアリングという意味として認識しましたが、間違いないですか。

VL 神田：ほぼ間違いございません。しかしながら現計画で交通財政支出の削減が一つの目標に上がっておりまして、これは引き続き今年度策定するにあたり、それを反映したい旨を市の方からもお伺いしておりますので、効率性の悪いものについては切っていく、あるいは代替交通手段に切り替えていくというところがあります。ですから、特に生活福祉バスや今の乗合タクシーでも大幅に事業として削減あるいは効率化を図るために対象者を大きく広げるとか、そういったところが想定されますと、その辺も含めてバス事業者やタクシー事業者と、むしろヒアリングというよりも、最終的には協議でどこに落とし所をつけていくかを探っていく話になろうかと思います。

事務局：削減ありきというように受け取られるかもしれませんが、1点間違えないでいただきたいのは、地域を集約すれば効率的にどうなるだろうかというような議論は、あくまで今後ニーズを把握した上でということになります。削減前提のイメージが先行すると誤解を招いてしまいます。例えば今ある予算のものをいかに振り分けるかというのが目的になってしまいます。それが結果、削減になるというのが理想的ではありますが、効率的かつ利用頻度が上がるようなやり方を一緒に考えていくところがベースでございますので、ここだけは間違いなきよう考えていただきたいと思います。

小野委員：今あるものをより効率的に、より生産性を上げるということはものすごく大事なことで、これはおっしゃる通りしなければならないことです。私が気になるのは、公共交通計画の策定の話です。今あるもので充足している前提だと、それで良いとなってしまわないでしょうか。もっとこういうものも必要なんじゃないかという意見は、誰がどこで聞いてくださるのでしょうか。今までこういった計画とは、わかりやすい例を出すと、高梁市のタクシー利用助成制度というのは交通空白地を中心にこれだけの地域で運行しています。しかし実際の交通空白地域はこんなものではないはずで、これは交通空白地全体の数パーセントでしかないと思うのですが、「この地域にもこういうのがあればいいよね」という意見を聞いたとしても、我々は事業者ですから、こういうことをしたりできるかを聞かれたら、「できますよ。頑張ります」、「これは難しいですね」というふうにリアクションすればいい立場だと思っています。ただ一方で、まちの未来を考え、地域としてもっとこうした方が効率的なんじゃないか、こういうところにこういうものが必要なんじゃないかという意見を話す場が正直この会議でしかないと思っています。そういうことを全てバイタルリードがやってくくださるわけではないよなと思いながら聞いておりました。4条路線が今張り巡らされて、これを活用していかなければならないという気持ちもすごく大事だと

思います。一方で、じゃあここのこれをこれに変えたら今までのものが維持できるよねという視点だけでいいのかという点が気になっております。今の4路線をさらに活用するために、交通空白地を経済規模がある集落に対してのアプローチにつながれば、バスもより使ってもらえる形になるのかもしれないと思うのですが、今は今を前提にして、それを維持するためにコストを下げて、それを実現化するためにどうすればいいのかに終始する計画になっていないかなというのが少々不安に思いました。その辺り私の聞き取り不足とか資料を読み込み不足で、そうではなかったら申し訳ないです。

事務局：ありがとうございます。まず、第2次高梁市地域網形成計画という計画自体は、基本的には削減ありきの計画だったというのは事実でございます。利用効率の悪い路線については少々削るということが、実施計画で特に大きく書かれていたと思います。路線を消すことによって金額を削っていくことが目的となっていたようなことはありました。ただ、それは令和2～3年までは確かに進めていたのですが、新型コロナウイルス感染症の問題があったため止まっていたような状況もございました。それを踏まえた上で今回の次の計画に移るということにはなります。地域によっては様々な問題もありつつ、どういう公共交通があるかというのはもちろん気になることだと思います。ただ、アンケートの中で利用者に聞き取るのも確かに重要ですが、結局その地域に暮らす方々にとって公共交通が必要なかどうかを把握することがそもそも一番重要なのではないかと思います。不便だから乗らないのか、遠いから乗れないのか要らないのかということになってくると思います。そこの掘り起こしがどうしても必要なので、それに対してどういう手を加えるかというのが今後の検討の課題だと思っています。よく路線バスで一番困るのは、バス停まで行くことが大変だという部分が少なからずあります。終点まで行ってバスに乗る人なのか、逆にもうちょっとルートを縮小した方が乗る人が増えるのではないかと、そういったケアが必要ではないかと思います。では縮めたその先の部分は何かの交通手段でカバーできるものがあるかどうかというのを検討していくことも必要だと思っています。ただ、市民の中の2万6000人に対して全ての人が満足いくものができるかというと、申し訳ないことですが、100%のものはできないと思っています。なるべく大きいところでできるようなものを考えていくようにしないと難しいと思っています。それが費用対効果で良いバランスのところがあると思いますので、どこに落とし込むかという点を皆さんと協議させていただきたいところです。ここは乗合タクシーが良いとか、または新しい交通手段が良いとか、路線バスが良いとかというのは、ある程度案を聞いている皆さんも全てはできないだろうと感じられると思います。この会議は良いバランスの着地点を協議させていただく場だと私は認識しております。どうしてもこうせざるを得ない、事業者さんができる最善のやり方、また市が出せる費用の上限もあります。100%満足できる施策は難しいというふうにご理解いただければと思います。

小野委員：こういった計画などを設ける場合、普通は専門部会というものがあります。多くは市の方、バス事業者、タクシー事業者の方から何人かで作られた専門部会を通して、審査をして練った後で交通会議に持って来るといったようなことをすれば、いろいろな意見も専門部会で出てくると思います。廃止の方向に走ったということは我々もあります。しかし廃止の前に何かやる必要があるでしょうということを考えないといけないと思います。今、岡山では真庭市でも専門部会をやっていますし、そこから公共交通会議に上げていくことも

1つの案だと思います。当然いろいろな方々がいますから、100%のものはできないでしょう。私の住んでいる地区はアンケートを取られていないです。そういうところがあるわけですから、たくさんの意見を聞くためにも専門部会から持ち上がったの公共交通会議での協議という流れを作るのも1つの案ではないかと思います。

事務局：ありがとうございます。専門部会という手段もあると思います。それがどの範囲でやるかということも話し合いが必要と思われます。それと、交通事業者の皆さまへの聞き取りが第一とあったように、現状を踏まえさせていただいて、ご意見は当然まとめさせていただいて、それはもちろん事前にお話をさせていただきながら、善し悪しも当然あるかと思えますので、そこは細かに進めさせていただければと思います。それに応じて会議等の回数を増やすとか、専門部会を取り入れる等、それはまた検討させていただきますので、柔軟に対応させていただければと思います。

小野委員：私が聞いたかったのは、この業務委託の形で事業計画が策定されていくという認識でいますが、この事業計画を立てる素案についてです。最初の素案のところを高梁市中心で、この形を具現化するために実際に調査をしていただいて事業計画ができるという形なのか、出だしのところから今を前提に話をするのであれば、多分削減した、もしくは力を出し切って、ここを消して、そのかわりに違うものをはめ込むという画期的な案をいただけるのかもしれないのですが、そのそのそも計画がどうあるべきなのかというところが正直見えてこないです。もちろん我々も市の皆さまに、自分たちの事業が役立つと思っていただけるようにやっている部分もあるので、やれる限りやれることをやるのですが、もっとこうしていったら効率が良かったのではないかというのを、正直後から思うパターンが事業者としては非常に多いです。良くなるようにと初めから話を進めていくということが結構多い現状があります。我々も専門分野として業務をやっているわけですから、理解はできます。しかし、そもそもこの計画をつくる際の最初の段階のところ、現状というのを軸にして話をすると、多分見逃してしまうことが出てくるのではないのかなというのが疑問に思ったということが一つです。今の話は先程のご回答で検討するという事で承知しました。

もう1点、ここにつけていただいている資料は内容がつまらないものであると思いますが、こういった意味で出しているのですか。

事務局：これ自体は2月の協議をもとに正式に本にしたものを本日お渡しさせていただいています。修正案で出していないものは令和2年のものです。

小野委員：では別に指摘していないということでこれは必要ないです。ありがとうございました。

丹正会長：それでは、他に何か御質問がありますか。

<意見なし>

健康福祉部健康長寿課より福祉介護共同送迎サービスについての説明

丹正会長：健康長寿課から説明がありました。市内介護事業所等、複数ある送迎、合同的にやってみる、実証試験をするということでの報告でございましたが、このことについてご質問がありますでしょうか。

全体を通して何かご意見がありましたらお願いします。

<意見なし>

丹正会長：無いようでしたら、以上で本日の予定の議事は全て終わりにさせていただきます。皆さまには貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。それでは、事務局へお返しします。

5. 閉 会

植木副会長閉会あいさつ

皆さま方におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただき、また長時間にわたり集中審議いただき誠にありがとうございます。急激な人口減少、高齢化社会の中で、この公共交通のあり方は非常に深刻な問題であるわけでございます。我々町協の代表が地域代表として出席をいたしておりますが、地域の公共交通における課題あるいはニーズを、本来なら前に提案して、そのことを解決につなげる、こういうことが必要だと思われませんが、これは非常に難易度が高い問題ですから、高梁市地域公共交通計画の策定に向け、どうか皆さま方のさらなるご協力、ご支援のお願いを申し上げ閉会の挨拶に代えさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

以上